

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との繋がりや、利用者の思いを組み入れて地域の方と共に助け合い、安心して過ごせる施設を地域にも知って貰っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	分かり易く利用者の立場に立った理念をリビングに掲示し、職員が常に理念を意識しながら、理念に沿ったケアを心掛けている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や御家族の面会の時などに、利用者本位のケアを大切にしたい思いや実施方法。例えば、オムツの使用や口から食べる喜びなど理念に掲げた根拠などを説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や近くのパン屋さんなどの店員さんや近所の人と話したり、御家族や(入居者の)知人が見えたときには、リビングでお茶を飲んで頂き話をする場をもっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月見会・餅つき・幼稚園や自治会の運動会などに参加し地元の人たちと交流会を回っている。季節の野菜も近所の方や外来通院中(顔なじみ)などから頂き交流がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設での餅つき大会には運営推進会議のメンバーや近所の方に声掛けしている。又会議の中ではテーマを決めて、認知症に関する知識を深めて頂く機会を持つようになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実習生の受入を積極的に行い、他施設の話や聴いたり、自施設と比較したりして自己評価に繋げている。日頃のケアを振り返りをする良い機会とし、ミーティングやカンファレンスを活用し改善に努めている。停滞することがないようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や勉強会の状況・公文療法の取り入れや内容など説明・報告し、メンバーから率直な感想・意見を貰い、サービスに活かしている。特に感染症に対する研修報告は、日常生活に活かされる意見を貰った。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険上の解釈の疑問や解決に迷った場合は市役所に出向いたり、電話で問い合わせしている。知り得た情報は全職員へ伝達しケアの質の向上に役立てている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	リーダー研修や他の研修で学んだ事を職員に伝達し知識・意識を深めている。成年後見制度でも、過去の経験談を職員へ具体的に話し聞かせた。	○	今後も職員全員が「権利擁護の制度」等の意識を持ち、それに関する知識が得られるよう、研修への参加又事業所内での勉強会をこれからも継続させていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、研修があれば参加し虐待防止の意義・知識を深め、施設内で絶対に発生しないよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者・責任者立ち会いの下、契約の内容を説明している。重要事項説明書・契約書・看取り指針を1冊にまとめ説明し、後日御家族が納得した場合、書類を提出して頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを設置し意見を取り入れている。身近な意見や不満は毎日のミーティングやカンファレンスで提議し問題解決に繋げている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康面は医院に、入居者の変化・訴えがある都度報告・相談して連携を密にしている。入居者の病状変化は、必ず御家族へ説明して貰っている。日々の健康状態は、御家族が入居者へ面会に来られたとき責任者・担当者が写真・記録を見て貰って説明している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望については、担当者会議・家族面談で話して貰う。最初の問いかけで思いつかなかった場合は、再度時間をおいて伺っている。また、日々面会に来られた際に御家族へ声掛けして不満・要望を語りやすい人間関係を築くようしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス・ミーティング・勉強会など職員の意見を取り入れて、介護・運営に反映させている。職員への声掛け又意見を出しやすい方法など研修で学んだ「BS法」「グループコーチング」を活用するようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	新職員は、仕事に就く前に必ず「認知症」の座学を行っている。パート勤務者は出勤時間を業務に合わせて時間をずらしたり、又行事日には人数を増やして安全に気をつけ、スムーズに進行出来るように人数調整を行っている。夜勤者の組み合わせも、「ナースと介護士」「熟練者と初心者」がペアになるように配慮している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	御家族へは担当者に変更があった場合は、その都度説明しているが、出来るだけ担当者を変えないようにしている。離職や業務に係わる不安を無くすため研修や勉強会・日々の会話(相談)に力を入れて新人教育に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		新入職員を対象にした勉強会、全体職員の勉強会、カンファレンス等で問題提起して話し合っています。研修会（GH協議会主催）や認知症実践者研修にも参加しています。参加出来なかった職員へは資料の配布をおこなっている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	他のGHやホームとの情報交換やサービス向上の為、交流をはかっていたいと思っている。 8月に他のGH訪問予定している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	勉強会を月1回程行っている。 スタッフ同士の意見を言い合っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		職員の努力によって、成果を評価する。出来る限り研修会、勉強会に参加して、仕事への意欲などを高めてもらうようする。 全体的に、勉強会も行っています。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		入居前に事前調査で、本人や家族、関係機関との情報交換、相談等を行い、本人との面談にて意志確認して思いを知る事に努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		電話や直接、家族と対話して困ってる事、不安な事を詳しく聞き、施設側の現状説明を詳細にして利用相談に応じている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から相談を受けた場合は、その問題に対しての改善策や方法を一緒に考え、サービス内容の変更も踏まえ検討するように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所等を通じて、他の利用者達とふれ合ったり職員と馴染めるようにしてから、サービスの開始に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の手伝いの中での会話や、グループワークやレクリエーションを通じて、利用者の知識を共有したり、得意分野の話の聞いたりしている。スタッフも利用者様から、教えて頂いている。	○	利用者同士が口論になった時は、話題を変えたり、間に入り仲介している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事予定を伝えるようにし、変化時には連絡を伝えていきます。定期的に写真など撮り、利用者の様子を各担当者が書いてお渡ししています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御本人の状態や状況を日頃からこまめに、面会の時など報告を行なっている。行事などには、御家族にも出来るだけ参加をして頂くようにしている。利用者様と、御家族のふれあいを大切にする。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「ふる里訪問」、「墓参り」をしています。昔馴染みの付き合いのある散髪屋さんへも、定期的に行かれる利用者もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士も1人1人性格も、考えも違うので気持ち、性格の配慮をして席順を決めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	葉書、封書を定期的に出したり、1年忌に参加したりする事が出来ていなかった。	○	利用が終了しても、御家族には行事の際、参加の呼びかけ、関係を断ち切らない付き合いをしていきたい。又、葉書、封書を定期的に出し、初盆、一年忌には、参加していきたい関係を断ち切らないようにしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人から話を伺うようにしており、御家族のからも面会時話を伺うようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族の情報をもとに、利用者一人一人の生活歴、職歴を把握して、会話の中で話題に出したりし、日常生活の援助を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様毎に出来ること、出来ない事を理解し、出来る事に目を向けて支援している。又、表情や言動からも思いを受け取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当国会議、面会時などで御家族担当者ケアマネ、管理者、御本人を含めて話し合い、希望に沿った介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス計画、担当者は、定期的にケアマネ、スタッフと共に話し合い状況に応じて見直しを行なってしています。又、状態が変化した場合には、検討、見直しをしております。	○	又、月一回スタッフ全員でカンファレンスを行い、ケアの実施評価や意見交換をし、新たなケア項目を出し、介護計画に反映させている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を念頭に日頃の様子を記録し、NSの記録、時には家族も記録を見て頂き様子を知って頂いている個別のケアチェック表では実践したケア内容を1人1人記入チェックし、モニタリングを担当が行い、次月の実施内容を決定し記録に残している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅で使用していた衣類入れや、好んでいたビールやたばこ等要望あれば状況をみながら取れ入れ環境整備も行っている。医療面でも家族や利用者が安心できるよう、常にNSに連絡が取れるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年3回避難訓練を行い、その中の1回は消防署に来て頂き実施している。運営推進会議のメンバーや近隣の人にも避難訓練の協力や、非常出口や消火栓のある場所など案内し、定期的実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所のケアマネジャーと話す機会はあるが、他のサービスを利用する事が無い為、現在の所利用していない。他施設へ転居、他施設からの入居がスムーズに行くよう連絡調整はしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センター参加を運営推進会議を活用して話し合いの場を設け、意見交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に応じて主治医と家族の面談、病状説明や今後の方向性話し合い、医療機関と家族GHが密に連携をとっている。熱発時や異常時にはすぐ連絡がとれるようにしている。義歯の調整なども、介護度の重い方など歯科往診を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	経過記録、ケアプランなどの個人情報、その利用者様の家族、官公庁以外には、個人情報保護の為に開示していません。 壁に掲示する際には、承諾書ももらっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	どんな小さな事でも、本人に聞いたり、家族に聞いたりしてなるべく希望に沿うようにして取り決めていっています。また後日、説明をして納得していただくよう努力しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人なりの生活リズムを、無理なく出来るように支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	スタッフ間で気がついたら、本人に聞いて理容に行ったり、洋服、靴を一緒に買いに行ったりしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ちょっとした会議等で好みや食べたい物を聞いたり、季節の物を取り入れるようにしております。 季節季節に合わせて色々やっている。 そば打ち もちつき他	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間は皆が好きな物を食べたりして、あとは本人が欲しいと希望した時は出来るだけお酒、タバコも見守りの中、飲んだりして頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	毎月のオムツの使用を見て、その人の排泄のパターンを把握してトイレや声かけ、誘導をして1人1人失禁を少なくして行けるよう支援していています。	○	お休み前や起床時のトイレの誘導や時間を見て声かけしたりしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めていても、その人のリズム、体調に合わせた入浴を行っている。又、自然な見守りをし、時には会話をしながらの入浴をしております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	リビングでなるべく過ごしていただいて疲れた時はソファーを利用していただき皆が見守りする中でくつろいでいただけます。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	普段の日常生活の中では、身体機能低下防止の為、個人の体調とやる気に合わせて起立、歩行訓練を行い脳の活性化の為、個人のレベルに合わせた公文を実施しています。行う度に本人の意志を尊重し、決して無理強いしない事を守っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて金銭管理が出来る方に対しては、自己にて管理して頂いています。スタッフと一緒に買い物に出かけた際、本人のお支払いは本人にして頂くようにして本人のお金の管理を支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は外に出て、草花や外の景色を見たりして会話をしたりしています。雨の日は室内の各階を訪れて、他利用者様やスタッフとの会話を楽しんでいます。又、ベランダにてお茶会を行い、人と人とのコミュニケーションを測っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様のご家族の協力を得て、古里訪問やお墓参りを行い、家族との交流を測っています。又、7月には船にてクルージングを計画しています。 日南線の旅、あじさい見学、アスパル入浴 実施済		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時として不安定な状態な時は、御家族へ電話をしたりして対応をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は、リビング又は居室で、時間制限無く話などして頂くようにしている。時には、入居者と御家族とスタッフと共に、お茶やお菓子など食しながら過ごされている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へはカンファレンス等を開き、毎日の業務の中で身体拘束の持つ意味を理解してもらっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室は鍵をかけず、自由に出入りを出来るようにしています。 いつでも、利用者の観察、行動を把握を出来るようし、鍵をかけない自由の暮らしを支援する。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフが常に目配りを行ない、視野に入れ「さりげなく」見守りを行なう。状態が変化し、不安定な方には夜間の巡視の数を増やし、見守りを行ない対策をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決めて、必要な時は使用をしています。洗剤、刃物、漂白剤は、目の届かない場所に置いて、必要最低限の物しか使用せず、保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人1人の利用者の1日の行動状況を把握し、常に入居者の場所を確認する。転倒する場所の利用者は、常にそばで見守りする。服薬は、服薬の入れ物を作り、服薬時は、再度名前の確認を行ない、本人が服用されたか、確認をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時には、緊急連絡網を活用し素早く責任者、かかりつけ医、オンコールNS、家族への連絡がとれるようしている。	○	応急手当や、心肺蘇生法などの勉強会への参加を計画する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回消防訓練を行っており、そのうち1回は消防署の職員に来て頂き総合的な訓練を行ない指導を受けている。消火器や消火栓の使用法や避難方法を確認している。又自治会や運営推進会議メンバーの方にも協力をお願いしている。	○	全職員が、防災管理者講習を受講していく
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会に来られた時や担当者会議などで説明している。状態変化がある時はご家族へ連絡し、報告している。ヒヤリなどあった場合には話し合いの場をもち、スタッフの意識を高めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行ない、ケアチェック表に記入している。又、日々の勤務の中で顔色、状態の観察を行ない異常があれば、管理者、責任者、クリニックへ報告し対応している。普段の会話の中でも、状態の変化に気付けるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には名前を確認し、声に出して復唱し手渡し服用している。内服薬の変更や臨時薬が処方された場合には、口頭だけでなく申し送簿にも記載して全職員に伝わるようにしている。薬の目的、用法、用量、副作用など、薬の情報を全職員が理解するようにしている。	○	新入職員への教育 既職員も、薬の用法、用量、副作用など、質問を必ずクリニック、NS、若しくはGHNSへ問いかけて回答をもらう、これからも充実、継続していく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、乳製品を飲んで頂いている。適度な運動、繊維質の多い食べ物を取り入れている。又、トイレに座った時には腹部のマッサージなど行っているが、それでもコントロール出来ない場合や、個々に合わせて、下剤の調整をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きができる方は、声かけ、見守りにて行っている。自力で出来ない方は、食後口腔ケアを行ない、義歯の方は、洗浄し専用の薬剤にて消毒している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニュー、バランス、嗜好品を考慮しながらも、その方に応じた食事量を調整している。又、夜間は白湯を準備し、水分補給が出来るようにしています。定期的に体重測定を行っている。夏場は特に入浴前後に水分補給に努め、脱水の予防に努めている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルを作成し、カンファレンスで検討している。インフルエンザの流行やノロウイルス情報には特に注意を向けて、日頃からスタッフ一同、手洗い、うがい、ウェルパス消毒をしている。スタッフ1人1人を感染予防の意識を高め、月に一度は居室をクリーンライザーで消毒している。職員も毎日出勤時に、体温測定をしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	残飯などはその日のうちに処理をしており、まな板、包丁も、肉用、野菜用に分けている。調理前には必ず、手洗いを行ない衛生に気をつけている。1週間に1回は食品チェックを行ない、賞味期限切れにならないように注意している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に植物や野菜を植え、必要な時には利用者様と一緒に収穫している。玄関前にテーブル、イスを設置している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング以外でも、ベランダなどでも、ティータイムが行なえるよう場所を設けている。リビングには花などを飾り、ローカの壁にも、行事の写真を飾るなどしている。又、利用者様がつくられた作品を展示している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり、畳を敷いて、好きな所で過ごせて頂けるようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に個人や個人の家族の写真を飾ったりしています。又、利用者様本人も衣類が見やすいように、ダンスに衣類別のシールを貼って一目でわかりやすいようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝利用者様起床時には換気をし、就寝時には温度変化に応じて温度調節を行なっています。又、利用者様に「暑い」か、「寒い」かを聞いて、小まめに調節を行なっています。週一回のペースで流し台の清掃を行なっていますが、訪室した際も、流し台に目を配り、汚れている時は、その都度、水を流したりして清潔保持に努めています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すぐに自分の部屋と分かるように、本人の写真や果物の絵をドアに貼っています。スタッフが個人の残存能力レベルを理解し、入浴時から浴槽への移動、車椅子からベッドの移動などを実施しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各利用者様のその日の様子や体調に応じて、テーブル拭きや食事の盛り付けなど本人が出来る事をお願いしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに野菜の鉢を置き、各利用者様が、水やりを行ったりして、自分で育てる楽しみを実感して頂いています。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input checked="" type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

介護度の重い利用者様でも、御家族の方の協力やスタッフの協力を得て、他の利用者の方と、外食に行かれたり、日帰りの旅行に行かれたりする事で、外で過ごせる時間を作って利用者様にも楽しんで頂いている糖尿病のある利用者様で毎食後、眠前、血糖チェック行いながら低血糖に注意しながら補食を行なっています。動敷地内に医院があり主治医との連携、オンコールナース、有資格者も時に応じて連携をとっている。御家族の同意を得てターミナルケアにも取り組んでいる。月1回のカンファレンスや医院との勉強会も実施しておりスタッフのケアへの意欲を高めている。